

平成26年度

全日本音楽教育研究会中学校部会

# 調査研究 報告書

平成27年3月

全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究部

## 平成26年度全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究集計結果について

全日本音楽教育研究会中学校部会  
調査研究部長 角 康 宏  
(葛飾区立小松中学校長)

本研究会の調査研究につきましては、全国支部長の皆様をはじめ各都道府県の音楽科の先生方に御協力いただきましたことに、心より御礼申し上げます。

この度、全国の先生方から回収した調査結果の集計がまとまりましたので、本冊子にて御報告いたします。各質問の集計結果を数値とグラフ等で表し、本研究調査部員によるデータの読み取り、分析を行いました。つきましては、本資料を御活用いただき、全国の音楽科の先生方の鑑賞の授業改善に役立てていただければ幸いです。

### 平成26年度全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究集計結果

- 1 活動内容 全国各支部の協力を得て音楽科の現状について質問紙による調査を行い、調査結果を集計分析する。
- 2 調査名 「中学校音楽科鑑賞指導に関する調査」
- 3 調査目的 本調査は、質問紙調査により中学校音楽科鑑賞指導に関する現状を明らかにし課題を明確にして、指導改善、授業力向上に役立てることを目的として実施する。
- 4 調査規模 北海道、東北、関東、東京、東海北陸、近畿、中国、四国、九州各地域の全49支部から任意で抽出した10校以上の回答を協力依頼する。  
予定サンプル数 10校×49支部＝490校以上
- 5 調査期間 平成26年7月1日（火）～平成26年8月8日（金）必着
- 6 調査回収 149校  
回収率30.4％  
無効回答なし
- 7 調査結果 次項以降に掲載。

1 各学年で鑑賞の指導を実践していますか。当てはまる方に○をつけてください。

実践している 149校

実践していない 0校

実施率 100%

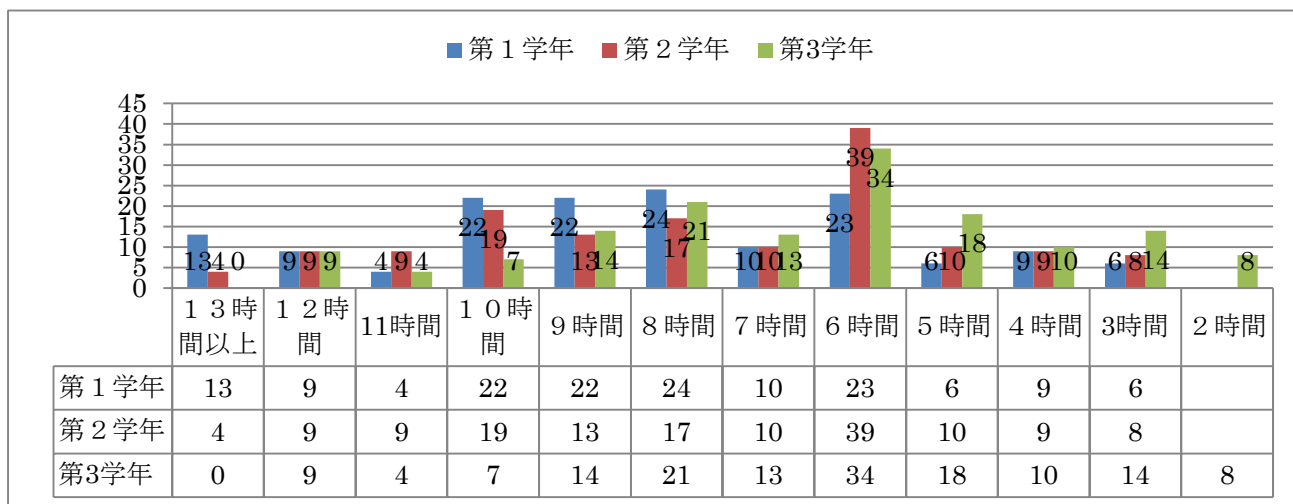
< 1 データの読み取りと分析・考察 >

このデータに関しては、100%の実施が認められるため、鑑賞の指導を行っていない学校は無いという結果でした。ただし今回の調査内容が「鑑賞」のみに特化しているものであることを考えると、全国から回答を寄せてくださったのは、鑑賞指導の意識の高い方ばかりである可能性も考えられます。

2 1で「実践している」と答えた方は、以下の質問にお答えください。

(1) 年間指導計画における鑑賞の指導時数をお答えください。

(数値は回答した校数)

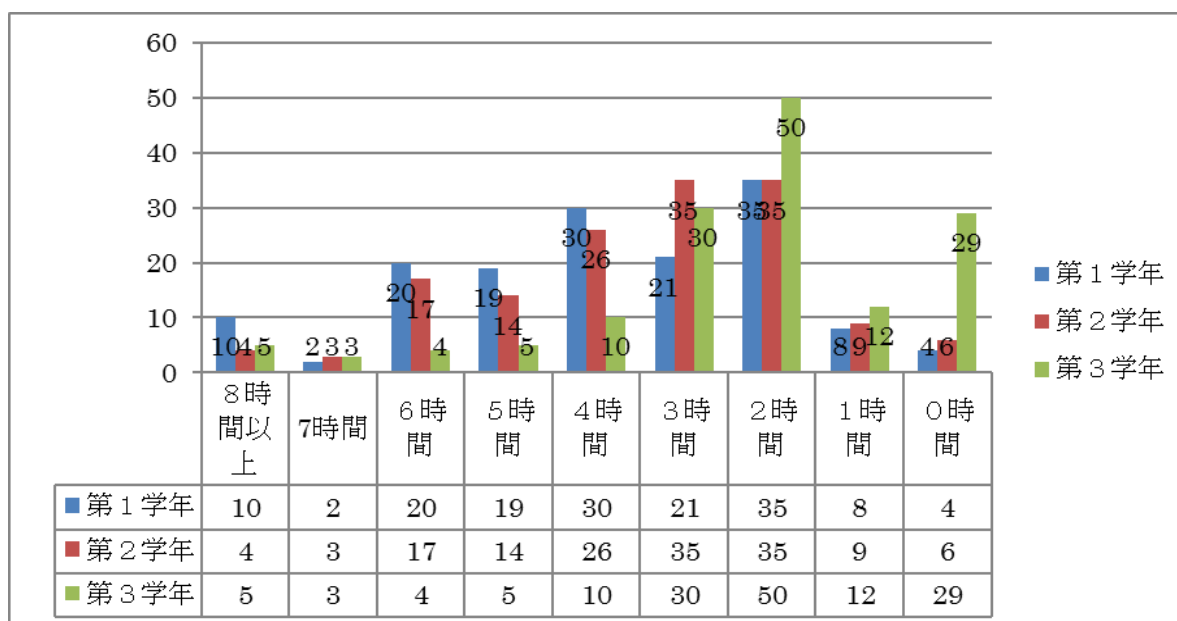


< 2 (1) データの読み取りと分析・考察 >

第1学年が8時間、第2・3学年が6時間という回答が最も多くなっていますが、音楽科の総授業数の1/6程度ということになり、若干不足気味なのではないかという印象があります。指導時数は10時間までの間にほとんどが集中しています。また、学年が上がるに従って、少しずつ実践時数が減少していく傾向があります。

(2) 次の指導内容を扱った授業時数と具体的な教材と扱う学年をお答えください。

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って（理解して）聴き、言葉で説明するなどして（根拠をもって批評するなどして）、音楽のよさや美しさを味わうこと。



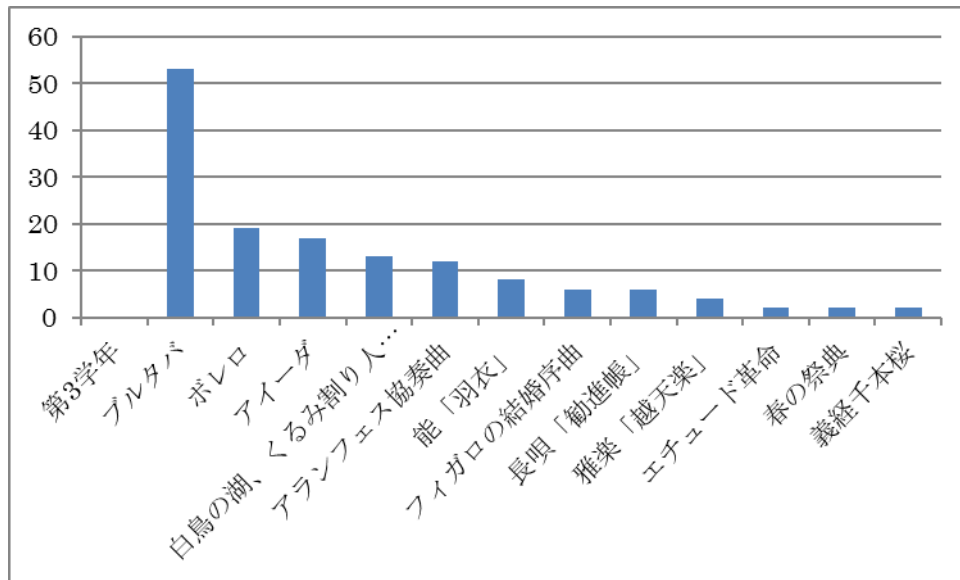
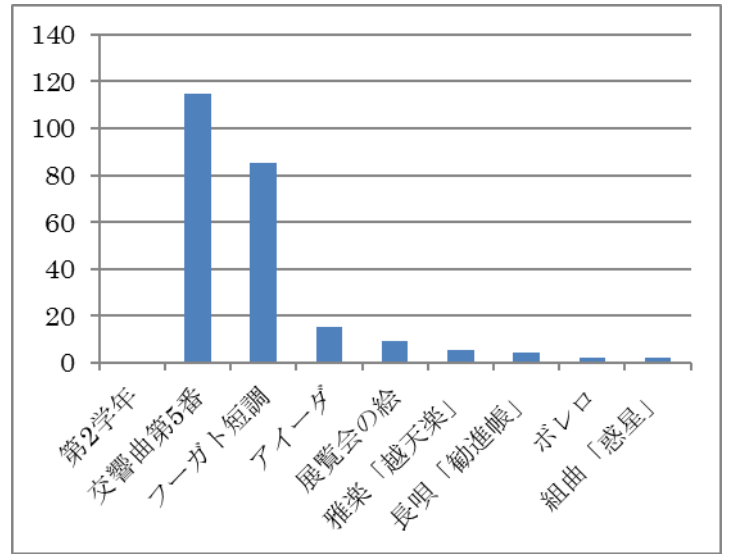
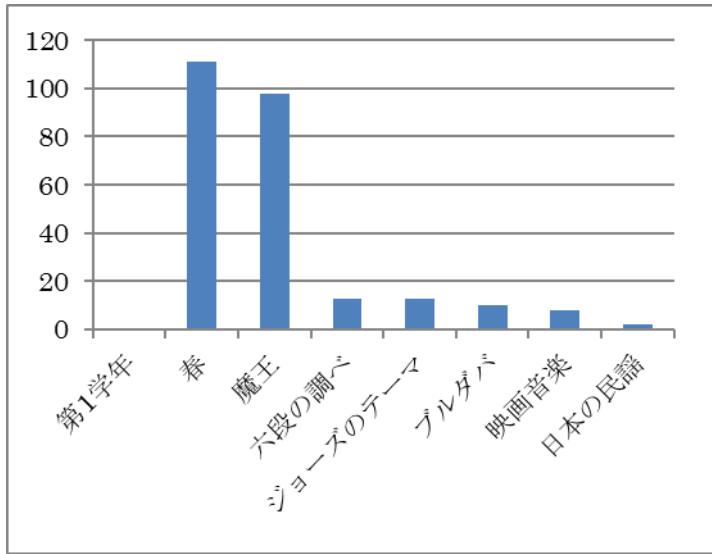
< 2 (2) データの読み取りと分析・考察 >

鑑賞としてまず基本となる部分をここで扱っているわけだが、全体的に2～4時間という傾向がみられます。第3学年になると、ここまでの学習を生かす意味で0時間が多くなっています。また、前項とも併せて考えると、「ア」の指導事項については、ほとんど毎回の鑑賞指導で扱っていただいているようです。「中学校学習指導要領解説」等に明記されているように、この「ア」の指導事項は後述の「イ」や「ウ」の指導事項を扱うときも関連させることが大切で、鑑賞指導の基礎的な部分を貫くものであることを考えると、望ましい結果であるにとらえます。

こちらも学年が上がるごとに減少していく傾向があり、特に第3学年では「イ」や「ウ」の授業展開が多くなり、「0時間」(取り扱わない)が目立っています。

具体的な教材「楽曲」(学年) をご紹介ください。

第1学年		第2学年		第3学年	
春	111	交響曲第5番	115	ブルタバ	53
魔王	98	フーガト短調	85	ボレロ	19
六段の調べ	13	アイーダ	15	アイーダ	17
ジョーズのテーマ	13	展覧会の絵	9	白鳥の湖、くるみ割り人形(他)	13
ブルダバ	10	雅楽「越天楽」	5	アランフェス協奏曲	12
映画音楽	8	長唄「勸進帳」	4	能「羽衣」	8
日本の民謡	2	ボレロ	2	フィガロの結婚序曲	6
		組曲「惑星」	2	長唄「勸進帳」	6
				雅楽「越天楽」	4
				エチュード革命	2
				春の祭典	2
				義経千本桜	2



(2) 第1学年のその他の曲	(2)3学年のその他の曲
カルメン	新世界
ます	いろいろな合唱曲
第2学年のその他の曲	バレエの名曲
シェエラザード	バレエ音楽
春	映画音楽 ノベンバーステップス
魔王	名曲鑑賞
管弦楽のための「日本組曲」から「祭り」伊福部昭	A列車で行こう イパネマの娘
交響曲第9番「合唱」付き	大地讃頌
フィンランディア 歩く歌 (林光) 歓喜 (シューベルト)	雅楽越天楽、シェエラザード
ピアノソナタハ長調	古代～バロック時代
威風堂々	「耳でたどる音楽史」の中の曲
六段の調べ	ギターの名曲
	映画音楽

(2)3 学年のその他の曲
ピアノ協奏曲第1番
ヘイジュード
オペラ
ポピュラー音楽
レクイエム
文楽
水の戯れ

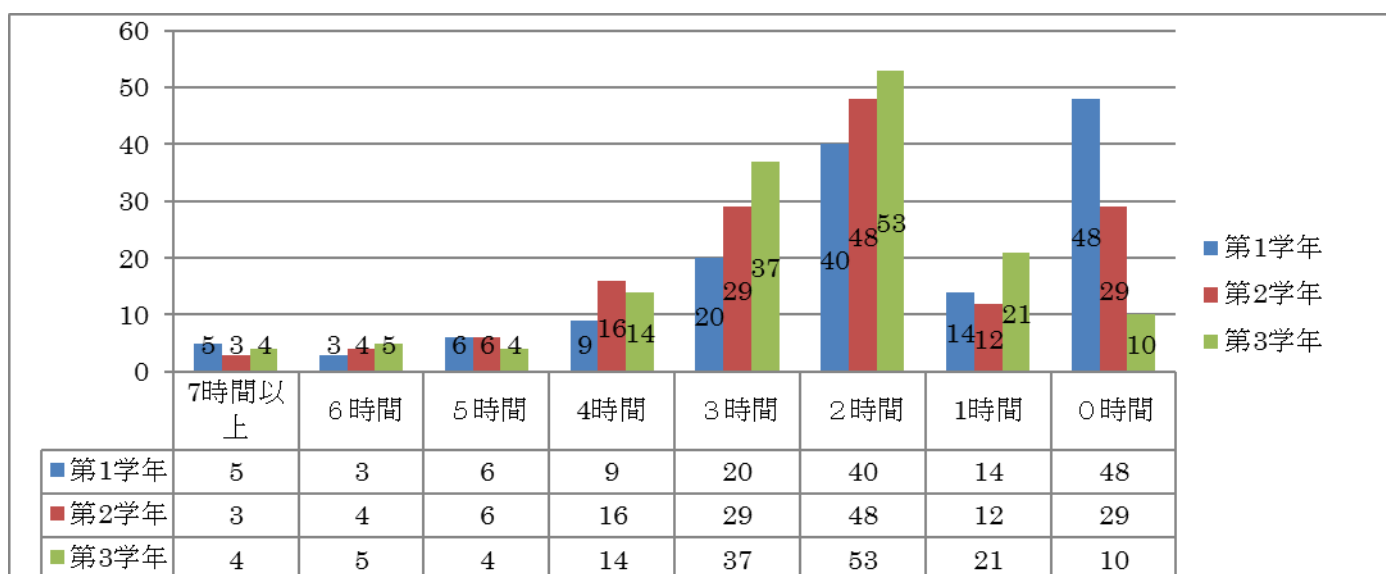
< 2 (2) 具体的な教材「楽曲」のデータの読み取りと分析・考察 >

基本的に、教科書に掲載されている楽曲やその関連曲(作曲者や)、従前の教科書に掲載されていた楽曲を中心に挙げられています。第1学年では「春」 ヴィヴァルディ作曲・「魔王」 シューベルト作曲、第2学年では「交響曲第5番」 ベートーヴェン作曲・「フーガト短調」 バッハ作曲、第3学年では「ブルタバ」 スメタナ作曲がそれぞれ突出しています。第3学年については各学校の生徒の興味・関心や実情に合わせて、扱う教材が多様化する傾向があります。

日本の伝統的な音楽としては、「六段の調」「越天楽」「勸進帳」「羽衣」が突出しています。第1・2学年では上位2曲がこの指導内容の中でオーソドックスな形で扱われています。第3学年になると、同じ指導内容でもさらに広がりをもつように教材も多岐にわたっています。特に、日本の音楽に関しては学年が上がるにつれ、分野がひろがっていくのがわかります。学年に固定されずに、振り返りの中で既習曲をまた教材として取り上げていく様子も感じられます。

(3) 次の指導内容を扱った授業時数と具体的な教材と扱う学年をお答えください。

イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて（関連付けて理解して）、鑑賞すること。

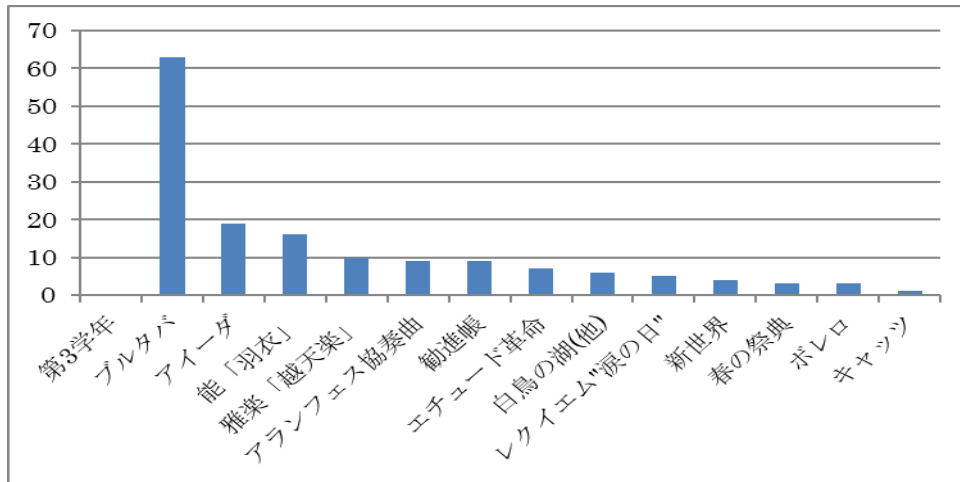
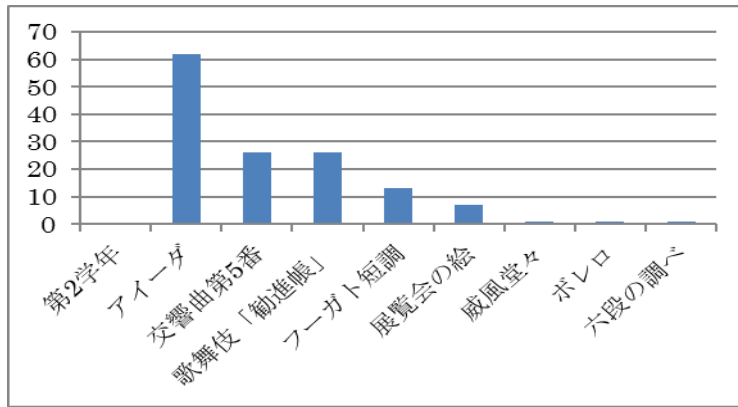
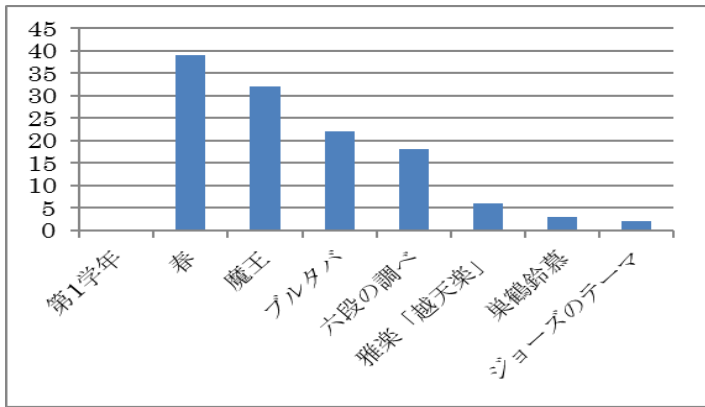


< 2 (3) データの読み取りと分析・考察 >

「イ」の指導事項については、年間で 2～3 時間の扱いに集中しています。この指導事項については、学年が上がるにつれて取り扱う時間が増えていきます。楽曲の背景をとらえさせ、関連付けて鑑賞する活動は、1 年時から徐々に積み重ねて学習していく必要性を感じていらっしゃる先生方が多いようです。従って第 1 学年は「0 時間」(取り扱わない)の学校も目立っています。

具体的な教材「楽曲」(学年) をご紹介ください。

第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
春	39	アイーダ	62	ブルタバ	63
魔王	32	交響曲第 5 番	26	アイーダ	19
ブルタバ	22	歌舞伎「勸進帳」	26	能「羽衣」	16
六段の調べ	18	フーガト短調	13	雅楽「越天楽」	10
雅楽「越天楽」	6	展覧会の絵	7	アランフェス協奏曲	9
巢鶴鈴慕	3	威風堂々	1	勸進帳	9
ジョーズのテーマ	2	ボレロ	1	エチュード革命	7
		六段の調べ	1	白鳥の湖(他)	6
				レクイエム"涙の日"	5
				新世界	4
				春の祭典	3
				ボレロ	3
				キャッツ	1



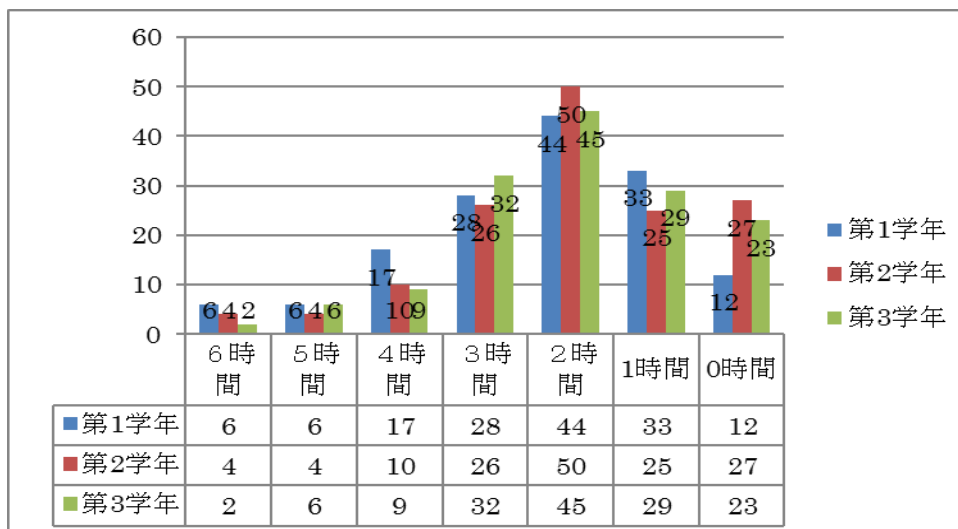
(3) 第2学年のその他の曲	(3) 第3学年のその他の曲
歌劇「トゥランドット」	歌舞伎とオペラ
シェエラザード	カルメン幻想曲 チャイコフスキーピアノ協奏曲
歌劇「蝶々夫人」	ミュージカル「ライオンキング」など
越天楽	バレエ
春	いろいろな合唱曲
ブルダバ	バレエの名曲
雅楽	ポピュラー音楽
文楽	魔笛
ピアノソナタハ長調 「越天楽」	アジアの諸民族音楽 世界の諸民族音楽
	くるみ割り人形
	フィンランディア
	ポピュラー音楽
	春の祭典
	交響曲第9番「新世界より」
	ジンジュ
	ピアノ曲「革命」
	シェエラザード
	ロシアの楽曲（音楽史と関連づけて）
	音楽史に基づいて主要楽曲を扱う
	「耳でたどる音楽史」

< 2 (3) 具体的な教材「楽曲」のデータの読み取りと分析・考察 >

2 (2) 指導事項「ア」で挙げられている教材とあまり変わりません。そちらで記載させていただいたように、この「ア」の指導事項と「イ」の指導事項の関連という視点に立つと、望ましい結果であると思います。また、少ない時数の中で、指導者の工夫によって同じ教材を複数の視点で展開している様子もうかがえます。オペラや歌曲、あるいはソネットなどの詩がついているもの、ストーリーのあるもの、具体的な情景をテーマにしているものが扱われています。一つの分野から総合的な芸術への広がりも感じられます。やはりこの指導内容でも、学年があがるごとにその教材も多岐にわたっています。また、「ブルダバ」「越天楽」は各学年ともに扱われていますが、生徒の興味・関心が高い教材で指導し、学年によって具体的な内容は工夫されていると考えられます。

(4) 次の指導内容を扱った授業時数と具体的な教材と扱う学年をお答えください。

ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の（諸外国の様々な）音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り（理解して）、鑑賞すること。



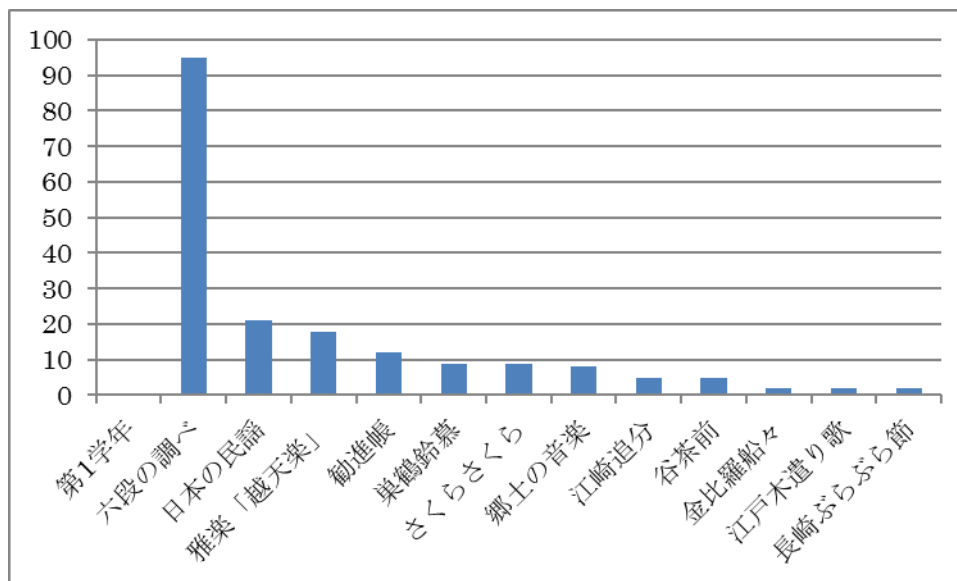
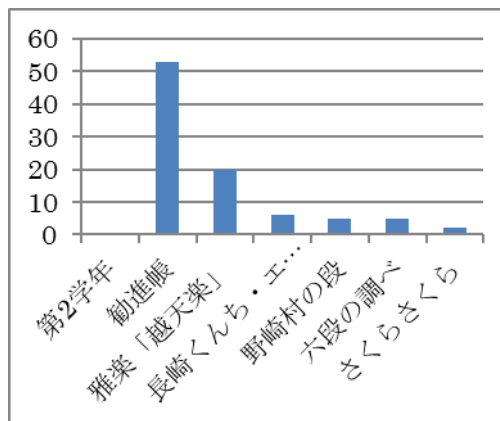
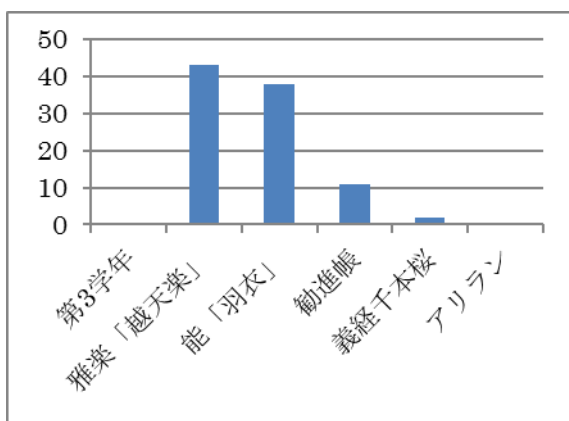


< 2 (4) データの読み取りと分析・考察 >

「ウ」の指導事項については、年間で0～3時間の扱いに集中しています。特に「0時間」(取り扱わない)という学校が目立っています。この指導事項については、学年の変化による時数の増減はほとんど認められません。多様性を理解させることの扱いが難しいと感じていらっしゃる先生方も多いようです。

①「我が国や郷土の伝統音楽」として扱っている具体的な教材「楽曲」(学年)をご紹介します。

第1学年		第2学年		第3学年	
六段の調べ	95	勸進帳	53	雅楽「越天楽」	43
日本の民謡	21	雅楽「越天楽」	20	能「羽衣」	38
雅楽「越天楽」	18	長崎くんち・エイサー・さんさ踊り・天神祭・阿波踊り	6	勸進帳	11
勸進帳	12	野崎村の段	5	義経千本桜	2
巢鶴鈴慕	9	六段の調べ	5	アリラン	0
さくらさくら	9	さくらさくら	2		
郷土の音楽	8				
江崎追分	5				
谷茶前	5				
金比羅船々	2				
江戸木遣り歌	2				
長崎ぶらぶら節	2				



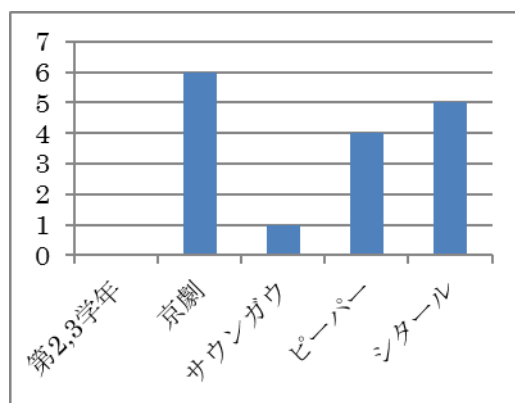
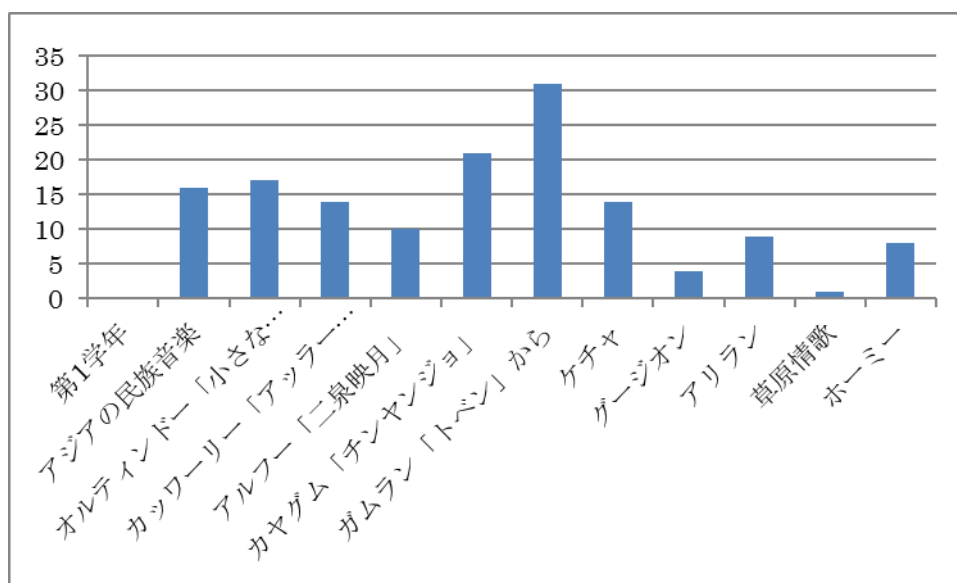
(4) ①第1学年のその他の曲	
秩父屋台ばやし	
和太鼓の演奏VTR	
ソーラン節、エイサーなど	
各地方の民謡やお祭り	
ちゃっきり節	
ソーラン節	
箏曲	
「尺八、箏」	
沖縄音楽、歌舞伎	
三原やっさ、ソーラン節	
大漁節、玉木の子守唄、ソーラン節	
草津節、安来節	
ソーラン節、音戸の舟歌	
「男なら」「五木の子守唄」「谷茶前」「よさこい節」「ソーラン節」	
かりぼし切り歌	
(4) ①第2学年のその他の曲	(4) ①第3学年のその他の曲
和太鼓の演奏VTR	能「敦盛」
長崎くんち	文楽
文楽	狂言
雅楽	沖縄民謡
「新版歌祭文」から野崎村の段	日本の音楽の歴史
各地方の祭り	「雅楽」
「新版歌祭文」から「野崎村の段」	さくらさくら
文楽「新版歌祭文」から「野崎村の段」	高砂
	狂言「附子」

## 2 (4) ①具体的な教材「楽曲」のデータの読み取りと分析・考察

教科書に掲載されている日本の伝統的な音楽や民謡に加え、回答していただいた先生方の個性や地域性が豊かに表れた結果となりました。「雅楽」や「箏曲」「尺八曲」に加え、「能」「狂言」「歌舞伎」「文楽」などの芸能関係まで多岐にわたっています。あきらかにここでは第1学年の教材が多岐にわたっており、民謡の分野が多くを占めています。民謡の特徴から、さまざまな音楽が、その郷土の歴史や背景によって生まれ、伝統音楽として伝わってきたことを指導していると考えられます。第1学年での「六段の調べ」は箏曲という構成で実際に我が国ではよくみられるスタイルであり、演奏もさほど難しいものではないことから、この結果になったと思われます。ここに付随して「さくらさくら」も扱われるのではないかと思います。また、「越天楽」「勸進帳」が各学年ともに扱われていますが、「能」の分野は第3学年のみです。さまざまな伝統音楽指導の積み重ねの上で「能」が登場し、発達段階や歴史的背景の理解の大切さが感じられます。

②「アジア地域の諸民族の音楽」として扱っている具体的な教材「楽曲」(学年)をご紹介します。

第1学年		第2,3学年	
アジアの民族音楽	16	京劇	6
オルティンドー「小さな淡黄色の馬」	17	サウンガウ	1
カッワーリー「アッラーとムハンマド、それに4人の友」	14	ピーパー	4
アルフー「二泉映月」	10	シタール	5
カヤグム「チンヤンジョ」	21		
ガムラン「トベン」から	31		
ケチャ	14		
グージオン	4		
アリラン	9		
草原情歌	1		
ホーミー	8		



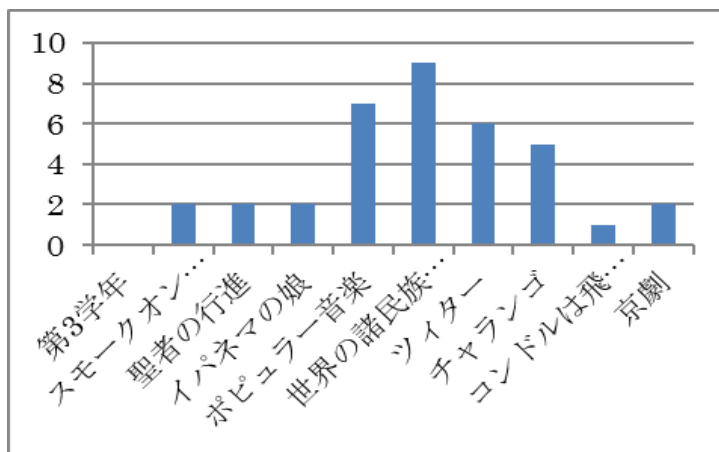
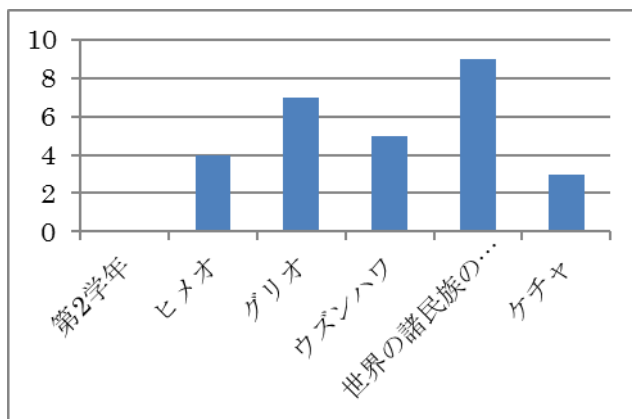
(4) ②第1学年のその他の曲	(4) ②第2学年のその他の曲
メヘテルハーネ	トルコ「ヴスーン ハワ」 ポリネシア「メメネ」
ホーミーなどの歌唱を中心に ヨーデル	ピーパー独奏 「十面埋伏」 オルティンド等
モリンホール、二胡	民族クラブとして中国・韓国の音楽（全学年）の演奏
アジアの弦楽器	アジア諸民族の音楽「カッワーリー」
ソーラン節 日本とロシアをつなぐ音	インドネシアジャワ島影絵、楽琵琶、ピーパー、リュート、ウード、ギター、コーン、シタール
民族クラブとして中国・韓国の音楽（全学年）の演奏	ホーミー、オルティンドー
アジアの弦楽篇	越天楽
夏休みの調べ学習レポートとして扱う	日本と世界をつなぐ音（琵琶～ギター）
漁舟唱晩	(4) ②第3学年のその他の曲
シタールの音楽、二胡の音楽	ジンジュ
コーン、インドネシアジャワ島影絵、楽琵琶、リュート、ウード、ギター	民族クラブとして中国・韓国の音楽（全学年）の演奏
箏とアジェン、ヒチリキとズルナ、笙とケーンの比較	インドネシアジャワ島影絵、楽琵琶、リュート、ウード、ギター、コーン
アジアの音楽	ウード
シタール	フラメンコ オルティンドー ホーミー
インドネシア バリ 青銅ガムラン「タグ・ピサン」 「ケチャ」ベトナム 「南部の子守唄」 「果実を採る季節」 「段々畑の朝」 モンゴル「淡い黄色の小鳥」 「アルタイ賛歌」 ブルガリア「ピレンツェの唄」 「カッコーヨーデル」	「ウズンハワ」 「グリオの歌」 「京劇」 「ヒメネ」
「小さな淡黄色の馬」 「アッラーとムハンマド、それに4人の友」 「二泉映月」 「チンヤンジョ」 「トペン」	

< 2 (4) ②具体的な教材「楽曲」のデータの読み取りと分析・考察 >

先生方の努力や工夫、また学校の個性が表れた結果となりました。教科書には掲載されていない楽曲が目立っています。教科書を一つの資料としながらも、充実した授業とするために、その指導書や参考書の記載、教科書準拠の鑑賞教材集などを幅広く用いていることが分かります。比較的知られている教材から、多岐にわたる教材でした。楽器の特徴や演奏法や発声法など、それぞれの相違点を意識した教材の選択と考えられます。

③「諸外国の様々な音楽」として扱っている具体的な教材「楽曲」(学年)をご紹介します。

第2学年		第3学年	
ヒメオ	4	スモークオンザウォーター	2
グリオ	7	聖者の行進	2
ウズンハワ	5	イパネマの娘	2
世界の諸民族の音楽	9	ポピュラー音楽	7
ケチャ	3	世界の諸民族の音楽	9
		ツイター	6
		チャランゴ	5
		コンドルは飛んで行く	1
		京劇	2



(4) ③第2学年のその他の曲	(4) ③第3学年のその他の曲
ラテン系、南アメリカ、ヨーロッパなど教材は一定ではありません。	ゴスペル、ブルガリヤ女声合唱、アルゼンチンタンゴ、フラメンコ、アランフェス協奏曲、京劇
ジャズ、ロック、ボサノバ	インド「ドゥーン」 ツィター シタール ピーパーは実物を見せている。
ポピュラー音楽	ジャズ
ブルガリアの合唱、ホーミー	シタール サウンガウ
アカペラの合唱	ピーパー シタール サウンガウ
京劇	モーニン
日本と世界をつなぐ音	ゴスペル ブルガリア女声合唱
アリラン	ボレロ
アルハンブラ宮殿の思い出	西洋音楽史
アイーダ	「かたりかたり」他、三大テノール等
アイーダ・三大テノール	ピーパー「十面埋伏」、シタール「ラーガジョゲ ショワリ」から、バラライカ「月は光ぬ」
京劇、枯葉、帰れソレント	ピーパー
ヨーデル	世界の撥弦楽器
グオーシャ、カヤグム、オルティンドー、ホーミー、アリラン、シタール、コーン、インドネシアジャワ島影絵、楽琵琶、ピーパー、リュート、ウード、ギター	帰れソレントへ
サンタルチア、オソレミーオ	シタール
ヨーデル	ブルダバ
「クンプソラ」京劇「霸王別姫」「ヒメネ タラーヴァ」	「我がマッツラインスドルフ」「サンガウの即興演奏」「十面埋伏」「蜂鳥の飛行」「ラーガジョゲショワリ」
トルコ「ヴスーン ハワ」 ポリネシア「メメネ」	バグパイプ
	ゴスペル、ブルガリアンボイス、タンゴ、バレエなど
	ロック、ジャズ、ボサノバなど
	サランガウ シタール
	ウズンハワ サウンガウ ピーパー シタール
	ミュージカル バレエ音楽

#### < 2 (4) ③具体的な教材「楽曲」のデータの読み取りと分析・考察 >

こちら先生方のご苦労がうかがえます。教科書に掲載されている資料の情報が少ないため、それをきっかけとして収集したと思われる、多様な教材が挙げられています。声楽曲・器楽曲、アンサンブル、総合芸術、またその中でも更に細分化され、カンツォーネ、シャンソン、その他の民謡、ポピュラー音楽、ジャズ、弦楽器・管楽器などといった、さまざまなジャンルをまとまりとして、授業が構成されているようです。また、たとえば、「ポピュラー音楽」をあげてみても、指導者の思いが大きく反映される分野であることがわかります。

(5) 鑑賞領域の学習で、生徒が、音楽のよさや美しさなどについて、音楽的な特徴などを理由に挙げながら、自分の考えなどを言葉で表す・批評文が書けることができるように指導していますか。

( ) そうしている ( ) そうしていない

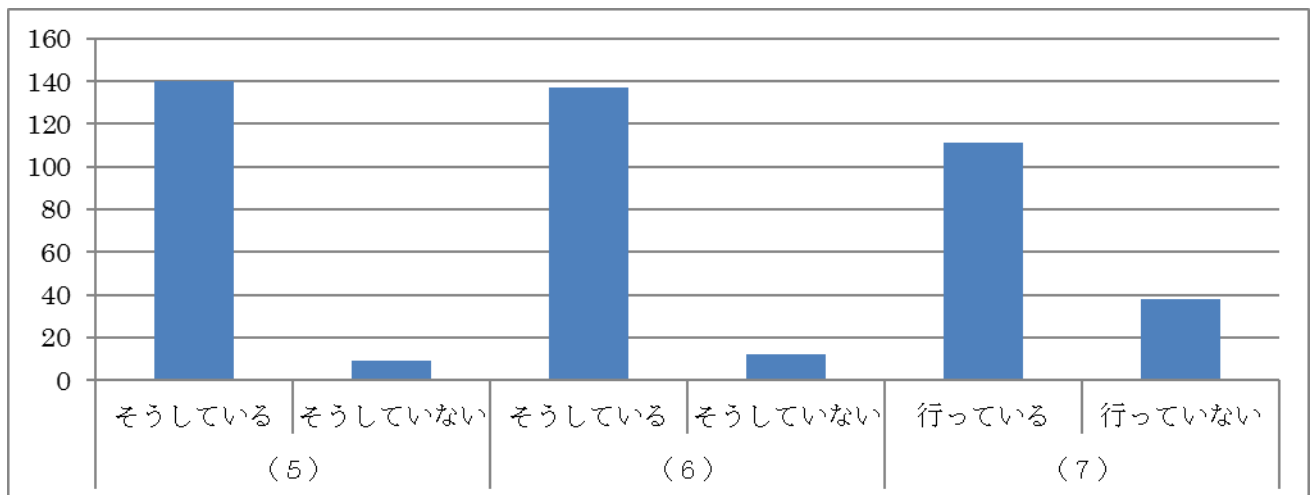
(6) [共通事項]の内容を、鑑賞の内容と関連させた指導をしていますか。

( ) そうしている ( ) そうしていない

(7) 鑑賞の指導と他の領域・分野（歌唱、器楽、創作）とを関連付けた学習活動は行っていますか。

( ) 行っている ( ) 行っていない

(5)	そうしている	140
	そうしていない	9
(6)	そうしている	137
	そうしていない	12
(7)	行っている	111
	行っていない	38



#### < 2 (5) (6) (7) データの読み取りと分析・考察 >

今回の学習指導要領の核となっている考え方、すなわち生徒が自分の考えを言葉で表出することができるようにさせる指導と、[共通事項]との関連付けをした指導については、ほとんどの先生方が意識して行っていることを読み取ることができます。

また、限られた授業時数を効率的に使用していくという考え方から、鑑賞と他の領域・分野との関連も意識的に行われていることが分かりました。[共通事項]というブリッジがあるため、関連付けは行いやすくなったととらえます。

言語活動として、自分の考えを表現したり、文章にしたりすることは大切な要素です。ただ、「よさや美しさ」の根拠を自分で表現するには指導を要します。

多くの場合、授業時数のことも含め、いろいろな領域・分野でこの関連付けが必要になってきています。ひとつの指導内容に限ることもありますが、体感すべてを使った音楽指導の場面ではこの関連付けが大切です。

(8) 行っていると答えた方は、関連付けている領域・分野の( )に○をつけ、指導の流れを簡単にご紹介ください。

( ) 歌唱と鑑賞

指導の流れ

( ) 器楽と鑑賞

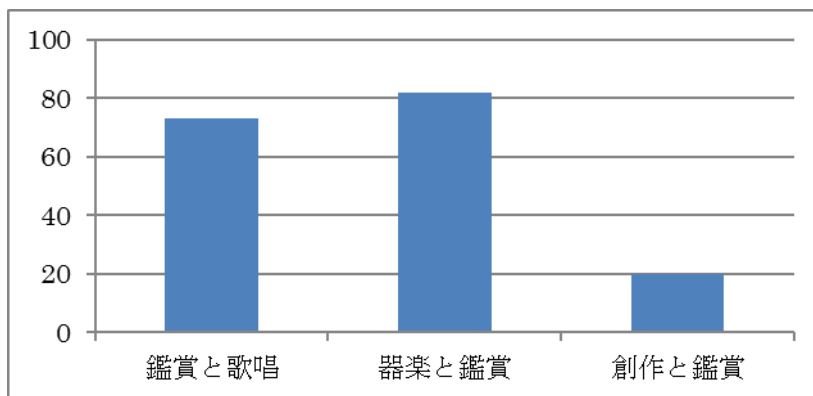
指導の流れ

( ) 創作と鑑賞

指導の流れ

○を付けた校数

鑑賞と歌唱	73
器楽と鑑賞	82
創作と鑑賞	20



## 2 (8) データの読み取りと分析・考察

鑑賞して「歌ってみる」「真似してみる」「演奏してみる」はその特徴をとらえた中で、比較的实践しやすいものです。しかし、創作となると「真似」ではない教材の分析がある程度必要となり、鑑賞としての指導内容から直接結びつけていくのは難しいと考えられます。

グラフのように、歌唱と鑑賞、また器楽と鑑賞の関連付けは積極的に行われているようですが、創作分野と鑑賞との関連はほとんど行われていないようです。〔共通事項〕を基にすると比較的近くにあるこの2つの領域・分野ですが、やはり創作は取り扱いが難しく、生徒も指導者側も、なかなか充実した授業展開ができない、という意識があるように思います。



歌唱と鑑賞の指導の流れ

ナポリ民謡と日本民謡 曲種に応じた歌い方を工夫しよう。
1 学年でソーラン節を歌い他の仕事歌(民謡)の鑑賞をし、他の民謡などにつなげていく。
日本民謡の鑑賞→地域の民謡を歌う→民謡曲の紹介
歌ってから鑑賞 羽衣
郷土の音楽(鯨歌)をゲストティーチャーと歌い、日本の民謡の様式や特徴を捉える鑑賞をする。
「勸進帳」を視聴後、長唄を体験
勸進帳で長唄を取り上げ、生徒に体験させている。その際、西洋と日本の比較をさせながら学習させている。
「魔王」一発声の仕方
長唄の一部を歌ってみて、鑑賞に入る。
能の鑑賞とその題材の謡の練習
魔王 歌舞伎の謡
歌舞伎の鑑賞と謡
アイダの鑑賞後、発声やイタリア語の発音を参考にしてサンタルチアを学習する。
「ブルダバ」の鑑賞を行った後、合唱曲に取り組む
「魔王」「赤とんぼ」音楽の情景と強弱の結びつき
「ジョーズ」と「赤とんぼ」
場面にふさわしい表現
魔王→感情表現の仕方を歌唱で生かす
「勸進帳」→寄席の合い方
「夏の思い出」の歌唱を5,6曲聴いて、表現の多様性を感じ取り→「夏の思い出」「テヌート」「フェルマータ」「間」について考えて自分の「夏の思い出」を考え表現させていく。
「ジョーズ」「カリブ」速度
ます(歌曲)とピアノ五重奏曲「ます」
アカペラの合唱→混声合唱へのステップ
アカペラを鑑賞→歌唱→創作(ハーモニー付け)
長唄と勸進帳
「音楽を形作っている要素」の語句を黒板に記し、これらの語句を意識し、鑑賞して感受したことを鑑賞カードに書くようにする。
歌唱と鑑賞が相互関係となるよう、共通事項で結び、それぞれが独立しないようにしている。
ドイツリートやイタリア歌曲の発声などを参考にさせる。
楽曲や演奏のよさを味わって聴く。
クラスみんなの歌唱を鑑賞しあい、互いに感動を共有しあってクラスの歌声をつくっている。
シューベルト「子守唄」→「魔王」鑑賞
魔王歌ってみる
2年でのサンタ・ルチアの歌唱指導の前に、三大テノールを鑑賞し、発生、強弱、テンポの揺らし方などについて話し合う
2年でサンタルチアの歌唱の際、三大テノールの学習をし、「アイダ」の鑑賞につないでいく。
リートとシューベルトの作品の歌唱
歌唱の教材の前後に「魔王」や「アイダ」などの教材を学ぶように計画している。
「帰れソレントへ」3人の歌手の演奏を比較聴取し、その特徴をまとめた後、自分の歌唱表現を考え、工夫し独唱する。
ミュージカル「キャッツ」の鑑賞→「メモリー」の歌唱
「心の中にきらめいて」の中間部
能「高砂」の謡と鑑賞
日本の民謡の特徴→鑑賞「日本の民謡」→ソーラン節歌唱
魔王視聴し、真似してみる。
勸進帳について長唄を歌ってみる。
2年歌唱で「夢の世界」「翼をください」をし、和声音楽を学習し、多声音楽の「ト短調」を学

習し、違いや良さにふれる
日本民謡の鑑賞の後、民謡の特徴に応じた発声で歌唱する等
「勸進帳」の鑑賞の途中で一部を唄わせてみる
「魔王」の作曲では、独唱のDVDを鑑賞させ、ベルカント唱法に親しませる
サンタルチアでベルカント唱法を模倣した歌唱を行い「アイーダ」を鑑賞する
「魔王」のバリトン独唱と混声合唱の声域を関連づける
日本歌曲について伴奏からイメージする楽曲の雰囲気をつかむ活動→鑑賞→歌唱の流れでやっています。
勸進帳の指導後に長唄を歌わせること。
シューベルトの子守唄 野バラ →魔王
ブルタバ、第9のメロディーを簡単に歌う。
魔王を学習しながら、実際四役をグループにわけ歌ってみる。
魔王の鑑賞の中で、登場人物のメロディーを歌わせる。
交響曲第5番の学習を進めていく中で、交響曲第9番の「歓喜の歌」の歌詞をドイツ語で歌わせる。（県版音楽ノート）を利用して。
民謡を歌う→鑑賞 能の学習→謡曲を歌う。
サンタルチアの歌唱させた後に、イタリアの船頭が歌っている映像を鑑賞させる。
長唄を歌う→歌舞伎
モルダウの鑑賞の授業後、混声四部合唱のモルダウに取り組んでいる。
交響曲第5番（ベートーベン）の関連として「歓喜の歌」帰れソレントへで三大テノールのVTR
魔王 実際に部分的に歌ってみる。
魔王の歌の部分で歌わせる
鑑賞曲のテーマ等を歌唱したり、歌唱曲になっているものを鑑賞する。
ソーラン節と民謡
帰れソレントへ（カンツォーネ）三大テノール鑑賞
歌舞伎と長唄
様々な発声による楽曲の鑑賞を行い、良い響きで発声するためにはどうすれば良いか考えさせながら指導している。
歌舞伎を鑑賞し長唄の特徴を学習した後、長唄を歌う。
範唱CD（教科書）以外のCDを聴き、比較鑑賞する。
アイーダで一節歌う。
アイーダ 魔王での歌唱
長唄「勸進帳」の鑑賞後、「これやこの～」の部分で唄う。
魔王（バリトン）を聴く→声の種類と変声期の説明→合唱のパート説明→合唱練習
魔王を鑑賞→音楽を形づくっている要素、構造と曲想との関わりについての理解をもとに、合唱表現を創意工夫する。

#### < 2 (8) 鑑賞と歌唱の指導の流れの分析・考察 >

ここに挙げられている主な流れの事例を見ると、「複数の領域や分野を『関連付ける』』ということが様々なレベルでとらえられています。歌唱を深めるために聴かせる活動を、鑑賞ととらえたり、鑑賞を深めるために歌わせる活動を歌唱ととらえたりした事例が目立ちます。「発声」の相違からその教材の特徴に結びつけたり、郷土や歴史背景によって歌われる場面を想像しながら、自ら疑似体験したりという授業が展開されています。また、その逆も展開例としてあがっています。

また単に、「年間指導計画」の工夫である事例も挙げられています。これについては今後更なる研究が求められるでしょう。

器楽と鑑賞の指導の流れ

箏曲「六段の調べ」を聴いた後、実際に箏の簡単な演奏を試みる。
さくらさくらの箏の演奏→箏曲六段の調べ
春の鑑賞とリコーダーでの演奏
主な旋律をリコーダーで演奏する。「春」「ボレロ」
ボレロ アイダ リコーダで演奏してから鑑賞
郷土の音楽（鋸南町音頭）を三味線で伴奏し、日本の民謡の様式や特徴を捉える鑑賞をする。
曲の構成や流れを理解するのに役立ち、曲への親しみが増す「ブルタバ」の主題をリコーダーで演奏する。
箏曲「六段の調べ」視聴後、「さくらさくら」の箏体験
鑑賞させて教材（楽器）を使って、実際に演奏する。
リコーダーの曲「威風堂々」を参考にする。「運命」の動機のリズムをティンパニーで打ってみる。
鑑賞曲の主なメロディーを楽器で演奏し、鑑賞につなげる。
鑑賞曲のメロディなど器楽（リコーダ）で演奏する。
箏曲の鑑賞→箏の演奏→創作（更に独自に工夫して演奏）
鑑賞で学習した音楽の形式が器楽曲の中で使われていることに気づかせ楽譜にチェックする。
「春」 鑑賞→リコーダー
3年でボレロを鑑賞後主題A リコーダーで演奏する。
箏の奏法を学習する。（さくらさくら など）→六段の調べ 鑑賞
箏曲「さくら」
春 ブルタバ
春 アルトリコーダーにて演奏
「春」の鑑賞の後にテーマをアルトリコーダーで演奏
箏の実技（器楽）練習を行ってから、箏の演奏方法等を学習した上で鑑賞曲「箏曲 六段の調べ」を学習する。
ビバルディ作曲「春」→アルトリコーダーで演奏
箏曲「六段」を鑑賞し、箏について学習してから箏の演奏に取り組む（「さくらさくら」）
「箏」よさを感じて実践
日本の伝統音楽→箏の学習
箏の演奏 日本の音楽（箏の演奏）を鑑賞して憧れを持って演奏に望む。
六段→「さくら」
六段→「さくら」の演奏
箏の導入でプロの演奏を見せて、奏法について教えている。
曲に対する「思い」をカードに記述したり、発表した入りして明確にする。その上で、強弱の付け方や奏法などの技能面を反復練習により高める。
歌唱と鑑賞が相互関係となるよう、共通事項で結び、それぞれが独立しないようにしている。
春の鑑賞をした後で、速さや強弱、音の長さ（スタッカーやレガート）などを考えさせ、オリジナル「春」をARでアンサンブルする。
箏曲「六段の調べ」の指導に関連し、箏の実技を外部講師を招いて行っている。
鑑賞した曲のテーマの特徴を感じ取ったり演奏する。
ギターの学習の中でのアランフェス協奏曲
「春」をアルトリコーダーで演奏した後鑑賞する
ビバルディ「春」のAR演奏
箏の鑑賞をした後、別の日に実際の箏で弾かせる
六段鑑賞
曲目は「さくらさくら」
3年ギターの基礎とギターの名曲鑑賞
リコーダーの鑑賞で音色、雰囲気をつかむ
ブルダバ鑑賞→アルトリコーダーとギター奏

オペラ「アイーダ」鑑賞→AR
楽曲の主題や動機をリコーダーで吹き、親しむようにする。
ギターの基本的な奏法を学習し、表現技巧の例として鑑賞を行う。
カルミナブラーナのメロディー（AR）そして鑑賞
鑑賞「越天楽」→鑑賞「越天楽幻想曲」→AR演奏「越天楽幻想曲」
春アルトリコーダー
フーガの主題を覚えて多声的な重なりを感じるためリコーダーを利用する。
箏で「さくらさくら」を弾く→六段の鑑賞に入る
「主人は冷たい土の中に」では楽曲の要素や構造を理解させる鑑賞に取り組んだ後、ウクレレやリコーダーを用いた器楽合奏を行っている。
フーガト短調でテーマをリコーダーで演奏し、構造を考える。
巢鶴鈴慕の尺八の奏法とリコーダーの奏法との違いについて確認している。
春の鑑賞 リコーダーでの演奏
リコーダーで旋律を吹くなどして感覚的に捉えるようにしている。
春のテーマを使ってリコーダーで表現するなど
箏の奏法（六段に出てくるもの）、「さくら」→六段の調べ
箏の奏法と六段の調べ
箏曲「さくらさくら」（箏とAR）
六段の後、箏で「さくらさくら」を演奏する。
六段の調べ（鑑賞）→箏「さくら」（器楽）→六段の調べ（再鑑賞）
モルダウを鑑賞した後は、アルトリコーダーでテーマを吹いた。
六段の調べの中で箏に触れさせる。六段に出てくる奏法や「さくら」を演奏させる。
リコーダー→アイーダ 箏→六段
オペラの鑑賞後、リコーダーでの「これは何と素晴らしい音だ」で表現のニュアンスまで考えて合奏する。
春、小フーガ、アイーダの主旋律をARで演奏。
ブルダバの鑑賞後、リコーダー合奏でブルダバを演奏している。
長唄の一部分を三味線でまね事をさせる。
鑑賞曲のテーマをリコーダーで吹く。
六段の調べと箏
箏の演奏、リコーダーで鑑賞曲のテーマを演奏する。
箏で「さくら」を弾き、箏曲「六段」の鑑賞をする。
フーガとリコーダー
楽曲の形式や主題の知覚、感受を通してフレーズのまとまりの表現の仕方を考えさせている。
箏で「さくらさくら」を演奏した後、箏曲「六段の調べ」を鑑賞
アランフェス ギターでコード奏をやった後に
ブルダバ 鑑賞→リコーダー
「六段」の鑑賞の後に箏の実技
鑑賞した曲の奏法を実際の楽器（箏）で体験する。
ブルダバ・魔王の旋律をリコーダーで
「交響曲第5番」の動機や第1第2主題をアルトリコーダーで演奏し、楽曲の構成を理解した上で鑑賞する。
箏「さくらさくら」を弾く
1年箏の基礎と六段の鑑賞
グループで話し合い、曲に合った音色を考えて練習する。
音楽史の曲→ARで主題
「交響曲第5番」では第1主題を指揮にあわせて吹く。
気づいたことを表現活動にいかす。
雅楽「越天楽」のメロディー（AR）そして鑑賞
箏の体験の途中で箏曲の鑑賞をして興味や関心を深める等

尺八で一節吹く。
箏曲「六段の調べ」の鑑賞後、箏を用いていくつかの奏法を試みる。
六段の調べ 箏でさくらを弾いてから
実際に演奏してみて気づいたことをもとに鑑賞する。
箏曲で余韻の変化を付ける技法に取り組み、その後鑑賞によって本物のすごさを知る。
「春」を鑑賞後、器楽教材の楽譜をアルトリコーダーで演奏する。原曲での同じ旋律の繰り返しや強弱、ハーモニー等を参考に自分たちの演奏を工夫する。
フーガト短調の1フレーズをARで吹かせる。
「ブルタバ」を鑑賞→SR、AR、ギターによる「ブルタバ」をグループ合奏し、発表

#### < 2 (8) 器楽と鑑賞の指導の流れの分析・考察 >

ほとんどが「箏」「リコーダー」で主旋律やテーマあるいは関連する旋律を器楽演奏として扱っています。比較的演奏しやすい楽器として「箏」はよく取り入れられています。また、日常的にアルトリコーダーは演奏しているので、ここからソプラノリコーダーや他の楽器との合奏につながる例もあります。アランフェスでは当然ながらギターが登場しています。また、1例ですが「尺八」での演奏も回答にありました。鑑賞前・鑑賞後とその展開のタイミングは異なります。ただ、リコーダー以外は学校によって所持する楽器でその展開が変わり、指導できるかという指導者の状況で楽器もかわっています。

## 創作と鑑賞の指導の流れ

平調子の音階を使って、4小節の旋律をつくってみよう。
交響曲第5番ハ短調の動機のリズムを用いて旋律を作る。
「さくらさくら」の箏の低音部を創作し、演奏
創作した作品をお互いに鑑賞する。
創作の題材に関連した曲の鑑賞→リコーダーによる変奏曲を創作→演奏（器楽）
「おうまがとおる」「運命」リズム反復等
アカペラを鑑賞→歌唱→創作（ハーモニー付け）
1年で箏の学習（さくら）をさいた後に「六段の調べ」を鑑賞、その後箏で簡単な曲を創作する。
箏について→①「さくら」②左手の奏法→創作「さくら」前奏→鑑賞「六段の調べ」
小フーガテーマを模倣していくなど
フーガト短調のメロディーに対旋律を作成する。
箏曲の学習の後で箏の旋律を作る。
箏曲を鑑賞し、平調子で創作を行う。
「春」の形式について理解させ、創作活動を進めている
日本の民謡と芸能（鑑賞）五音音階→五音音階で旋律を創ろう（創作）
音楽を聴く→音楽の特徴を使って創作。
箏曲「六段」「さくらさくら」と様々な奏法を使ったメロディとリズムの創作
六段の調べと箏曲
六段と箏での簡単な創作
箏曲「六段の調べ」の鑑賞後、箏を用いて「さくらさくら」の前奏づくりをする。
聴いた印象と曲の構成要素などを結びつける→自分が作曲するときの工夫に生かす。

### < 2 (8) 創作と鑑賞の指導の流れの分析・考察 >

その曲の構成やリズムパターン、音階を知ったうえで創作につなげていく展開です。特に平調子など五音音階を用いた創作が中心です。構成音から実際に「～らしい曲」が実際に生まれることは生徒にとってもわかりやすく、達成感が得られる展開です。

〔共通事項〕を活動のブリッジとすれば、関連が図りやすい領域・分野の組み合わせです。ただし評価がとても複雑になることが考えられますので、工夫が必要でしょう。

(9) 鑑賞指導について悩んでいることや今後の課題は何ですか？(多くある場合は、裏面にもお願いします)

週1～1.3時間の限られた時間の中での鑑賞指導なので、思った通りの指導がなかなかできない。
能に関する指導(魅力ある授業にするために)
鑑賞の評価規準があいまいになってしまうこと
映像資料が高い
映像資料の与え方、タイミング
じっくり鑑賞させる時間がない。
少ない回数の中で、その教材のどこにスポットをあて、深く掘り下げて聴く部分を選択するか、日々の課題です。
誰にでも分かりやすい評価方法
教科書の鑑賞曲を聴いて、どう評価すればいいのか。
鑑賞の授業で生徒が飽きないようにするための工夫を考えることが課題。
生徒の作品をじっくり評価する時間が取れない。また、評価が難しい。
9年間のスパンでどんな聴く力を育てていくのかという見通しをもって小学校教師はやって欲しい。
歌唱や創作にも関連させていけたらと思う。
AV環境があまりに貧弱。
鑑賞教材のDVDやCDなど、目標やねらいにあったもの(演奏、演奏の様子、クローズアップ、説明)がなかなか見つからない。邦楽については、先生自身の勉強する場が欲しい。
日本音楽は視聴教材を使って指導しているが、実際に技能を身に付けさせたいが指導力不足故にできない。
評価について、わかりやすいワークシートの作り方、わかりやすい授業の工夫
今の評価のやり方が本当に正しいか
授業時数不足
生徒の語彙力が低いいため感情を言語化させるためにも、いかに言語獲得させるかが課題
狙いに沿った比較文の完成に至る指導の流れ
環境が整わないとしっかり聴けない(生徒指導上の問題)
2・3年は週に1時間の授業で大変少ない。
文章で表す際の語彙力がなかなか向上できない。
他の分野と関連付けについてや評価のポイントについては課題だと思っています。
言語活動を充実させたいと思っているが、なかなか思い切ってやれていない。
教材の素晴らしさを生徒に伝えるための手立て、ねらいに迫る教材の選択。
DVDがそろっていないこと。
生徒の鑑賞能力(根拠を持って感じたことを述べるができる力)を向上させる。
評価方法(ABC)の規準
限られた時間の中での教材の選択、活動内容の焦点化
鑑賞用DVDが学校によって数が少ない。
伝統的な音楽の指導において、音楽を形づくっている要素をどう感じ取らせ、どう言葉で説明させたらよいか
評価。鑑賞という内面的活動をどのように見取り、評価につなげるか。批評文という新たな展開が生まれたが、これにしても、どう評価に繋げていくか。
細かい部分の聞き取りと全体の楽曲としての魅力をバランスよく伝えられるように授業工夫することが課題です。
しつこすぎず、要点をおさえ、授業後も好んで聴いてくれるようになって欲しいと思っています。
視聴覚環境が整っていない。
行事等で全校合唱に取り組むため、歌唱に力をいれるため現在取り組んでいる常時活動の発展と充実
鑑賞は、TVを中心に座らせるので、1時間鑑賞だけになってしまう。生徒の座席をどうするか、いつも迷ってしまう。
意欲の低い生徒への対応
機器を買ってもらいたいが財政難

< 2 (9) 鑑賞指導の課題分析・考察 >

課題として、主に次の3点が挙げられます。

1点目は限られた授業時数の中で、いかに効果的な鑑賞の授業実践をしていくのか、という課題です。教材になる楽曲は、そのほとんどの演奏時間が長大で、しかも楽曲が抱えている背景や、生徒たちに伝えなければいけない情報が膨大であることが多いため、どこに焦点を絞って授業展開をしていくのが望ましいのか、見極めづらいということです。

2点目は評価です。言語がその中心にならなければならないのは周知のことですが、使用するワークシート等の作成に関しても、精査する必要があります。生徒の知覚・感受したことを言語から読み取り、明確な評価規準を設定して評価することが難しいということです。

3点目は授業で使用する CD・DVD その他ソフトの選択です。自分のねらいとする授業展開にふさわしいソフトがなかなか見つからない、または手に入りづらいといった課題が挙げられます。ソフトばかりでなく充実した鑑賞機器の設置も課題かもしれません。昨今、映像なしの鑑賞活動は考えられなくなってきましたので、それらの環境整備も重要な課題だと思います。

これらは誰もが考える課題です。絶対的に解決できない課題もありますが、近隣校との情報交換や研究会などで協力し合えることも可能でしょう。1校で悩まず、連携することも大切です。

3 1で「いいえ」と答えた方は、以下の質問にお答えください。

(1) 実践していない理由を下から選び、当てはまるものすべてに○をつけてください。

( ) 時間がない

( ) 指導内容が分からない

( ) 指導方法が分からない

( ) 評価が難しい

( ) その他【 】

(2) 鑑賞指導について悩んでいることや今後の課題は何ですか？(多くある場合は、裏面にもお願いします)

※ご協力ありがとうございました。

該当する回答なし



■全日本音楽教育研究会中学校部会 調査研究部 役員 ■

部長	角 康 宏	校長	東京都	葛飾区立小松中学校
副部長	野 口 容 子	校長	神奈川県	横浜市立南が丘中学校
副部長	黒 沢 妙 子	主幹教諭	神奈川県	横浜市立金沢中学校
副部長	大 庭 一 修	主幹教諭	神奈川県	横浜市立軽井沢中学校
副部長	渋谷 恭 子	教 諭	東京都	狛江市立狛江第二中学校

発 行 平成27年3月1日

編集・発行 全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究部

印 刷 所 大盛印刷株式会社

東京都豊島区雑司が谷 1-48-17

☎ 03-3971-1246 Fax 03-3988-2945